

新潟県中越沖地震における 発電所の状況について

第12回 地域の皆さまへの説明会

平成22年7月

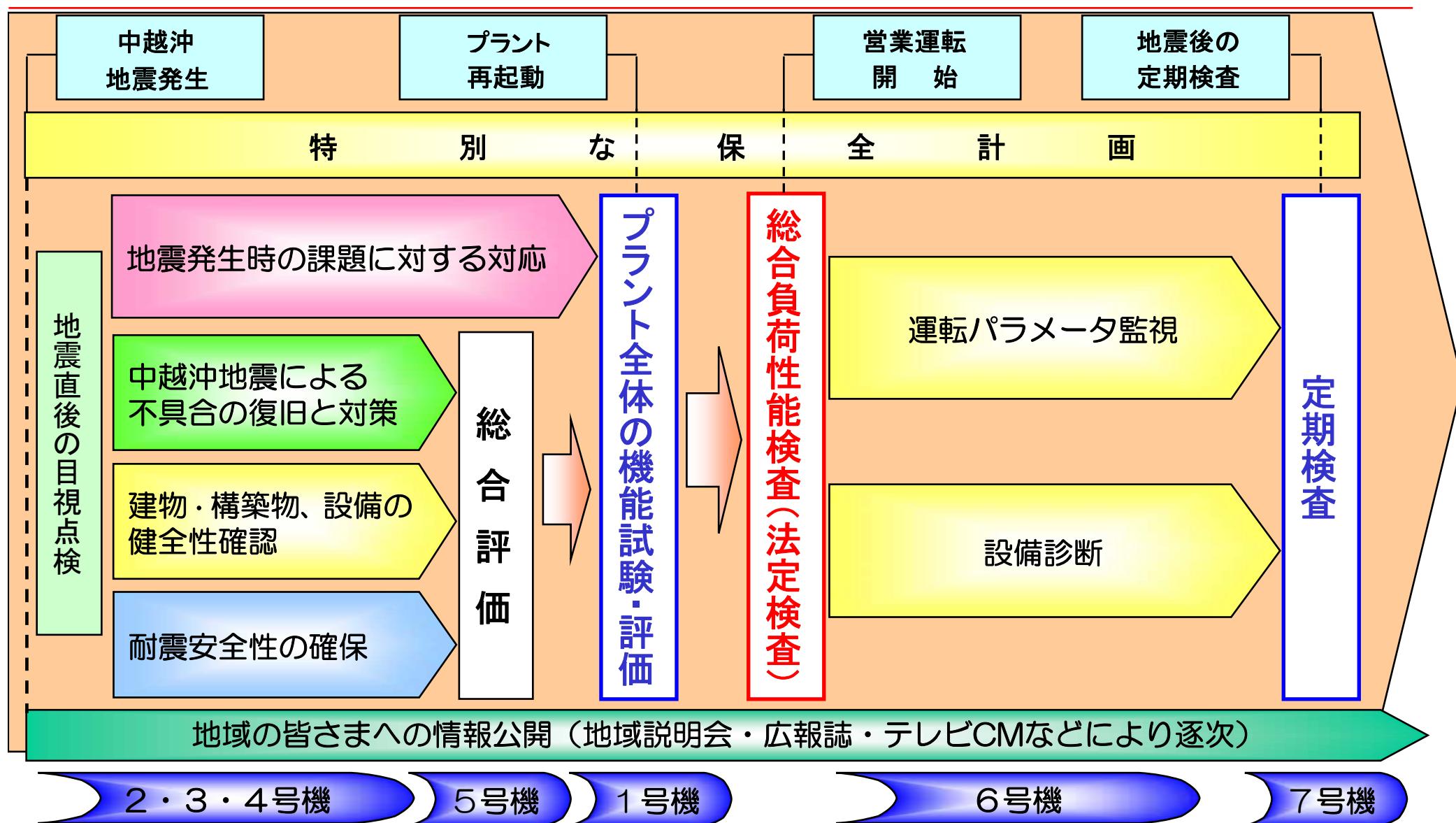


東京電力

本日のご説明内容について

- (1) 6・7号機の状況
- (2) 1号機 プラント全体の機能試験の進捗状況
- (3) 5号機 点検・復旧等の進捗状況
- (4) 2～4号機 点検・復旧の進捗状況
- (5) 発電所の安全と品質の向上および透明性の確保に向けた取り組み

中越沖地震発生以降の取り組みについて



(1) 6・7号機の状況

6・7号機の状態（1／2）

◆ 6号機の運転状況

中越沖地震後、設備の点検・評価・復旧に努めてまいりましたが、平成22年1月19日に営業運転を再開し、今日まで安全・安定運転を継続しています。



【中央制御室における運転操作の様子】



【運転員による現場パトロールの様子】

6・7号機の状態（2／2）

◆ 7号機 第9回定期検査の状況

平成22年4月18日より第9回定期検査を実施し、特別な保全計画に基づく設備の点検および健全性確認を実施し問題のないことを確認しました。

① 軽微な影響が確認された設備の点検

地震による軽微な影響が確認されたものの、機能に影響をおよぼさないとの観点から、補修等を行わず復旧した燃料取替機、復水器等の設備について外観点検、動作試験等を実施し、問題ないと評価しました。

② 疲労評価を行った設備の点検

残留熱除去系配管（レデューサ部）等のように、地震による繰り返し荷重が設備の運転継続に伴う疲労に対して、影響を与えていないことを確認するために、非破壊検査を実施し、問題ないと評価しました。

その後、平成22年6月26日に原子炉を起動し、現在100%出力による調整運転を継続しています。

今後、定期検査（法令）の最終確認検査である総合負荷性能検査を受検し、営業運転を再開する予定です。

(2) 1号機 プラント全体の機能試験の進捗状況

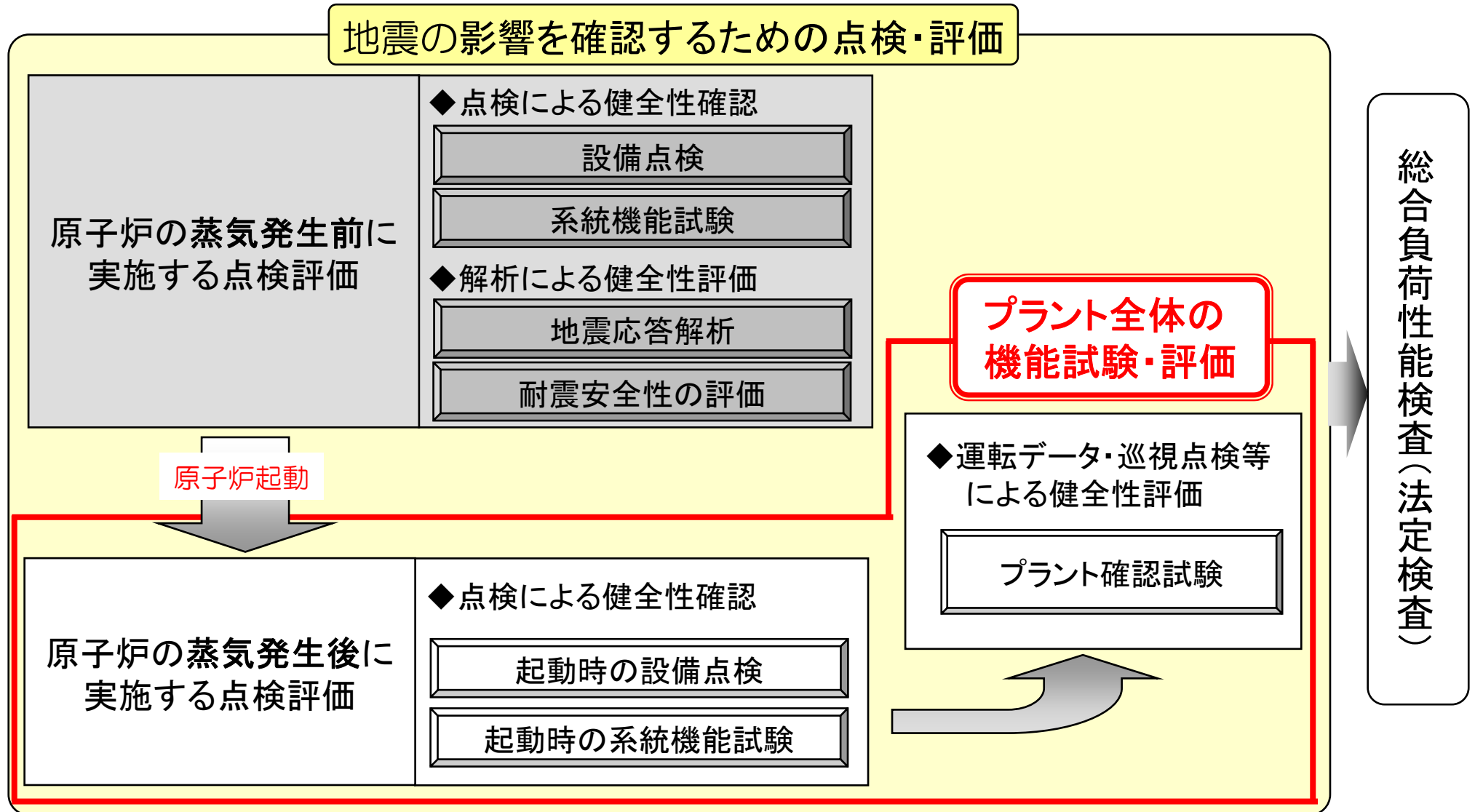
1号機 設備健全性確認の結果

1号機の健全性確認につきましては、5月21日に新潟県、柏崎市、刈羽村より運転再開のご了承をいただき、5月31日より原子炉を起動して、プラント全体の機能試験を国・県の委員会によるご審議・ご指導をいただきながら進めてまいりました。

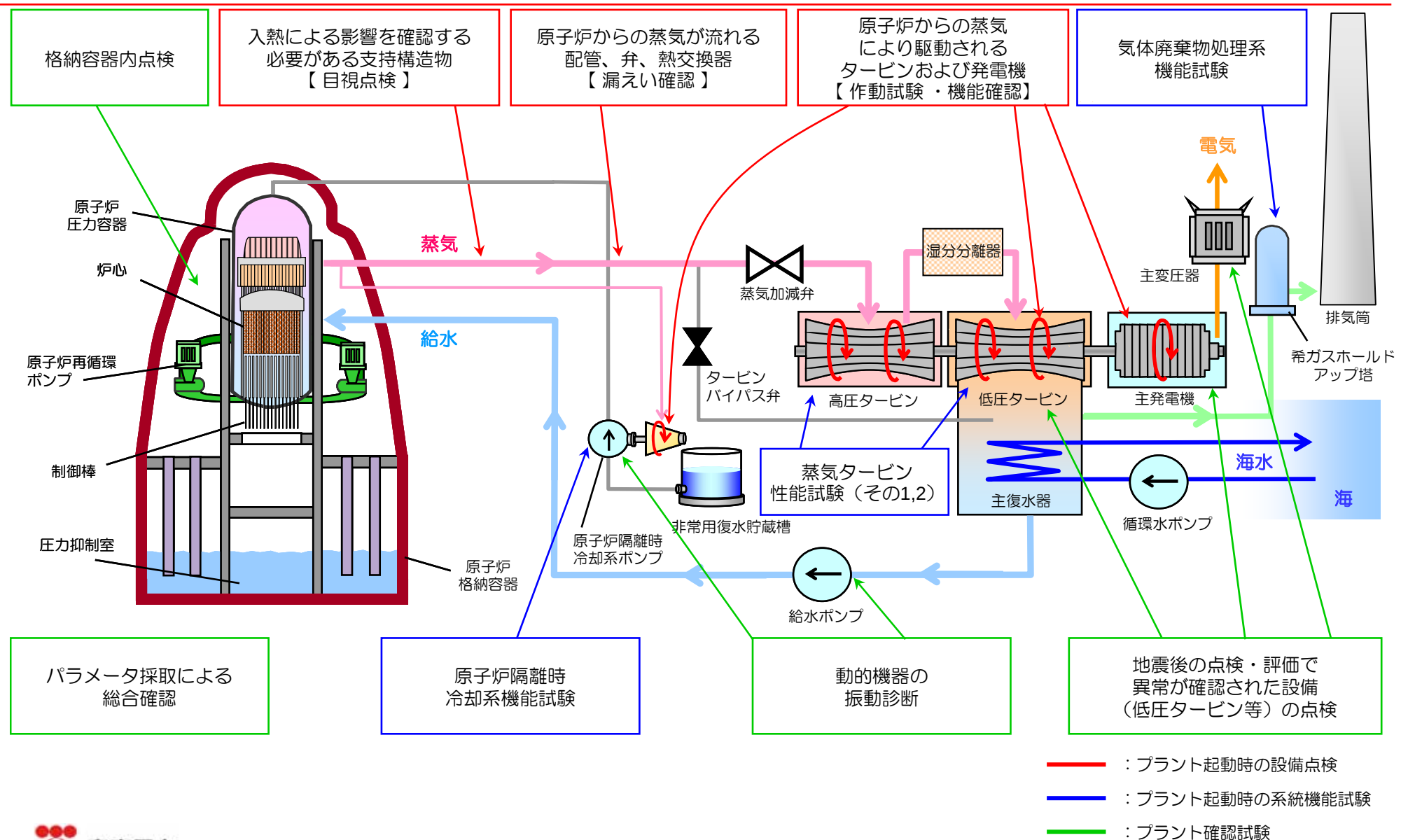
結果につきましては以下のとおり各所に報告しました。

- ・ 7月7日 国、新潟県、柏崎市、刈羽村

プラント全体の機能試験・評価の位置付け



プラント全体の機能試験・評価の概要

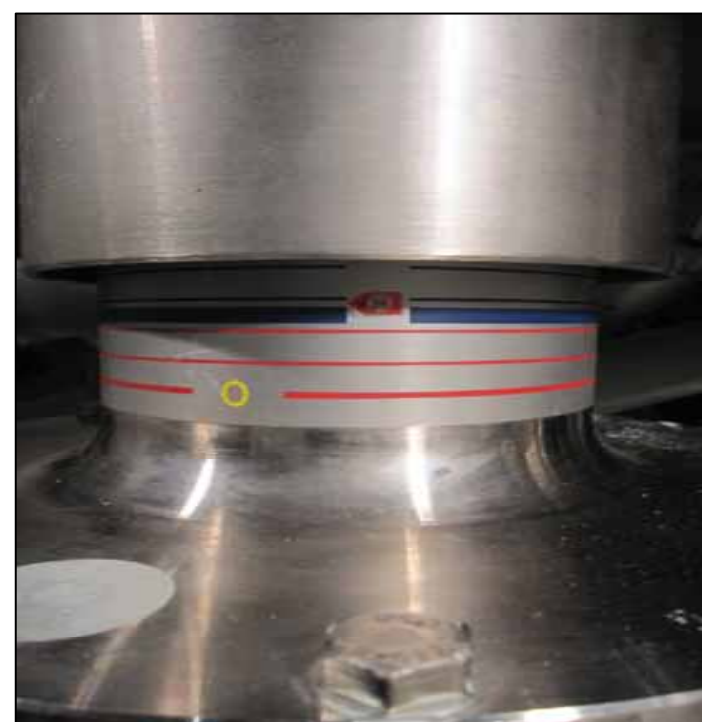


1号機 プラント起動時の設備点検（配管等の支持構造物）

配管等の支持構造物について異常がないか目視点検を行いました。
その結果、問題のないことを確認しました。



支持構造物に異常がないことを確認



配管の熱膨張の変位量を確認

1号機 プラント起動時の設備点検（配管および弁）

蒸気が流れる箇所などの点検を行い、問題のないことを確認しました。



配管に異常がないことを確認



主蒸気隔離弁に
異常がないことを確認

1号機 プラント起動時の設備点検（タービンおよび発電機）

原子炉の蒸気により駆動されるタービンおよび発電機の健全性の確認を行いました。その結果、問題のないことを確認しました。



タービンの異音確認



発電機の状態確認

1号機 プラント起動時の系統機能試験

▶蒸気タービン性能試験(その1)

定格熱出力一定運転状態において、タービン回転速度等の主要な運転データを連続4時間以上採取し、蒸気タービンが安定かつ安全に運転していることを確認しました。

▶蒸気タービン性能試験(その2)

タービンの回転数が定格回転数より上昇した時に、タービンが自動停止することおよびその他のタービン保安装置の作動状態を確認しました。

▶気体廃棄物処理系機能試験

運転状態において、気体廃棄物処理系の主要なデータを連続4時間以上採取し、気体廃棄物処理系の機能が正常であることを確認しました。

▶原子炉隔離時冷却系機能試験

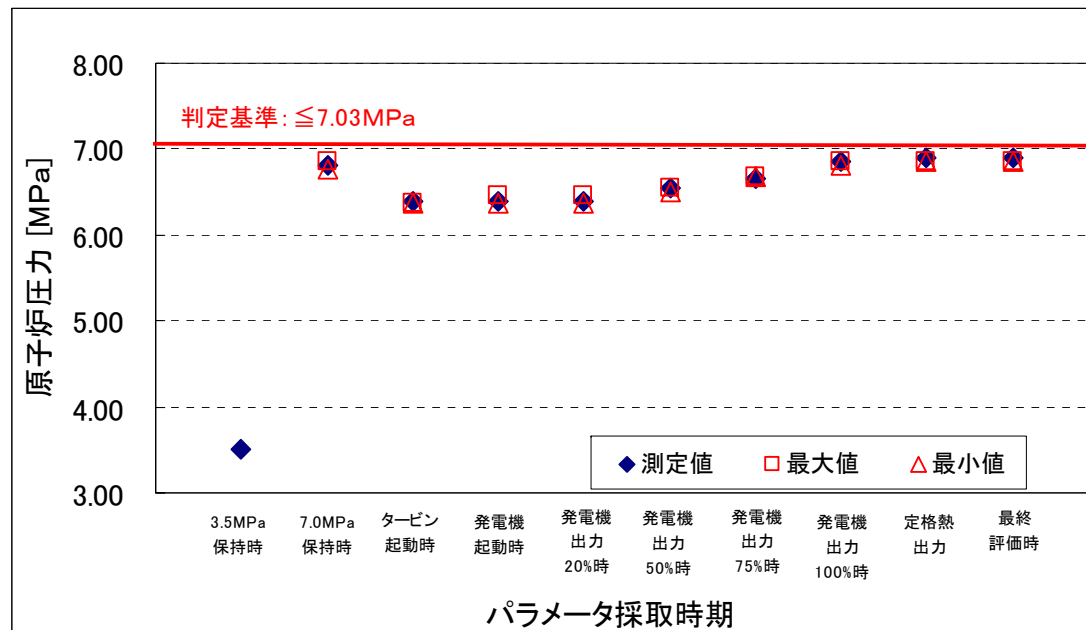
模擬信号により自動的に冷やす機能が起動することを確認しました。

プラント起動時の系統機能試験の結果、地震による影響と考えられる異常は確認されず、系統機能が正常に発揮されることを確認しました。

1号機 プラント確認試験の結果（運転データの採取）

約900点の運転データを採取し健全性の確認を行った結果問題はありませんでした。

（例）原子炉圧力



運転データの採取



評価会議

判定基準や過去データとの比較を行い問題がないことを確認しました。

1号機 プラント全体の機能試験・評価のまとめ（1 / 2）

「プラント起動時の設備点検の評価結果」

いずれの設備にも地震の影響と考えられる異常は確認されず、地震による設備健全性への影響はないと評価しました。

「プラント起動時の系統機能試験の評価結果」

いずれの試験においても判定基準などを満足しており、系統機能が正常に発揮され、技術基準に適合していると評価しました。

1号機プラント全体の機能試験・評価のまとめ（2／2）

「プラント確認試験の評価結果」

地震の影響を示す兆候は確認されませんでした。また、過去のデータと比較してプラントパラメータが安定していることを確認し、今後の継続運転の観点からも問題はないと評価しました。

「その他の確認項目の結果」

プラント長期停止の影響および、耐震強化工事を実施した設備の確認を行った結果、いずれにおいても異常は確認されませんでした。

起動前に実施した点検・評価の結果も踏まえ、プラント全体の健全性評価を行った結果、地震による設備への影響は確認されず、今後、継続的にプラントが運転可能であると評価しました。

1号機 起動後の主な不適合

- ◆プラント起動後、不適合事象は83件（6号機では41件、7号機では75件）発生しましたが、地震の影響によるものは確認されませんでした。
- ◆発生した不適合で安全に影響をおよぼすものは確認されておらず、すべて必要な対策を実施するとともに、あわせて関係各所への報告と情報公開を実施しております。

【主な不適合の例】

- ① タービン駆動原子炉給水ポンプ吐出弁（B）のシートパス
（原子炉の起動により初めて確認可能となった不適合事象）
- ② 原子炉隔離時冷却系タービン蒸気止め弁のシートパス
（原子炉の起動により初めて確認可能となった不適合事象）
- ③ 温度上昇に伴う配管サポートと配管保温材との接触
（格納容器内点検の範囲において確認された不適合事象）

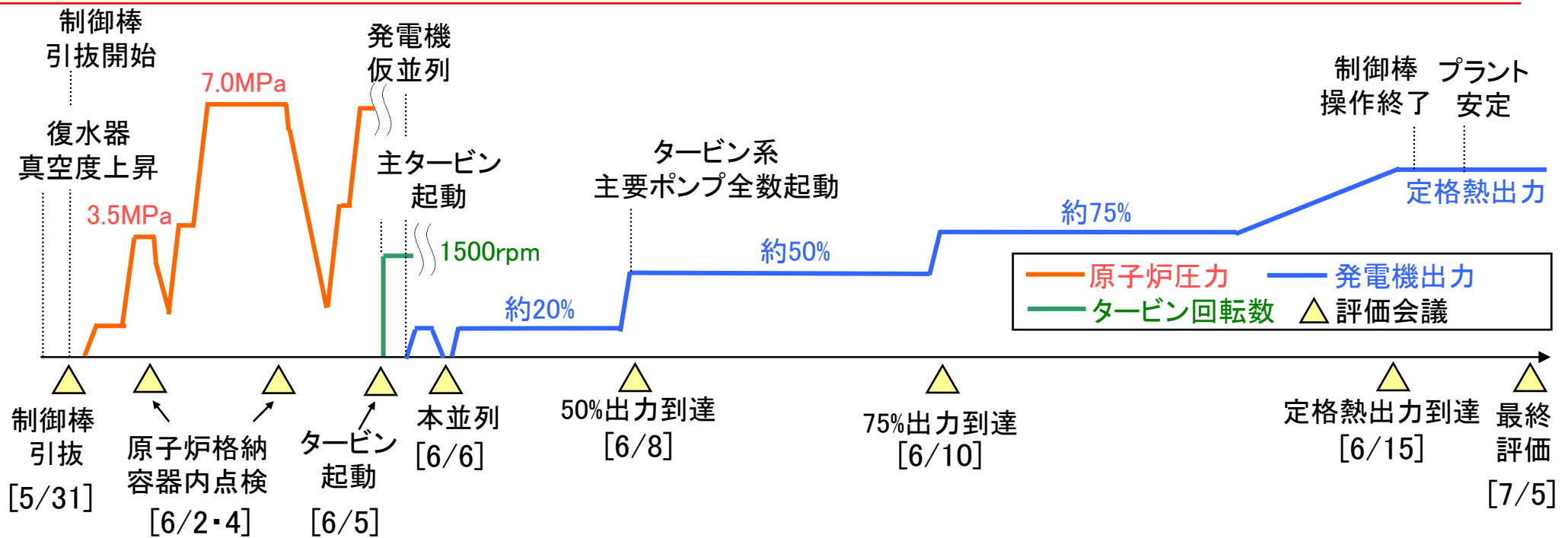
6・7号機で確認された不適合事象への対応

「不適合事象の水平展開」

先行して実施した、6・7号機における「プラント全体の機能試験・評価」において確認された不適合事象のうち、水平展開が必要な不適合事象（7号機：6件、6号機：2件）について以下のように対応しています。

- ▶ プラント起動前に確認・対応が必要な事項について、確実に実施されていることを確認しました。
- ▶ プラント全体の機能試験・評価期間中に対応を実施するものについて、適切な時期に必要な対策が実施されていることを確認しました。

1号機 プラントの起動実績

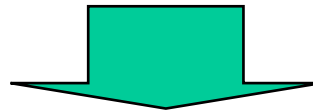


今回特別に実施した事項	通常の点検	今回の点検
原子炉格納容器の点検	7.0MPa時点で点検	3.5, 7.0MPa時点で点検
運転データの採取	約400点	約900点
評価会議	5回	14回
情報提供(プレス)の回数	1回	13回
ホームページ等での情報掲載	—	5月21日から

1号機の今後の予定

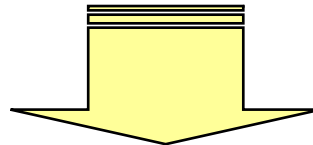
＜プラント全体の機能試験による健全性確認＞

プラント全体の機能試験を実施した結果、地震の影響はなく、プラント運転データの採取や、巡視点検によりプラントの運転状態を継続的に監視し、運転状態が安定しており、今後の運転に問題がないことを確認しました。



＜総合負荷性能検査＞

定期検査（法令）の最終確認検査を実施し、健全であることを評価します。

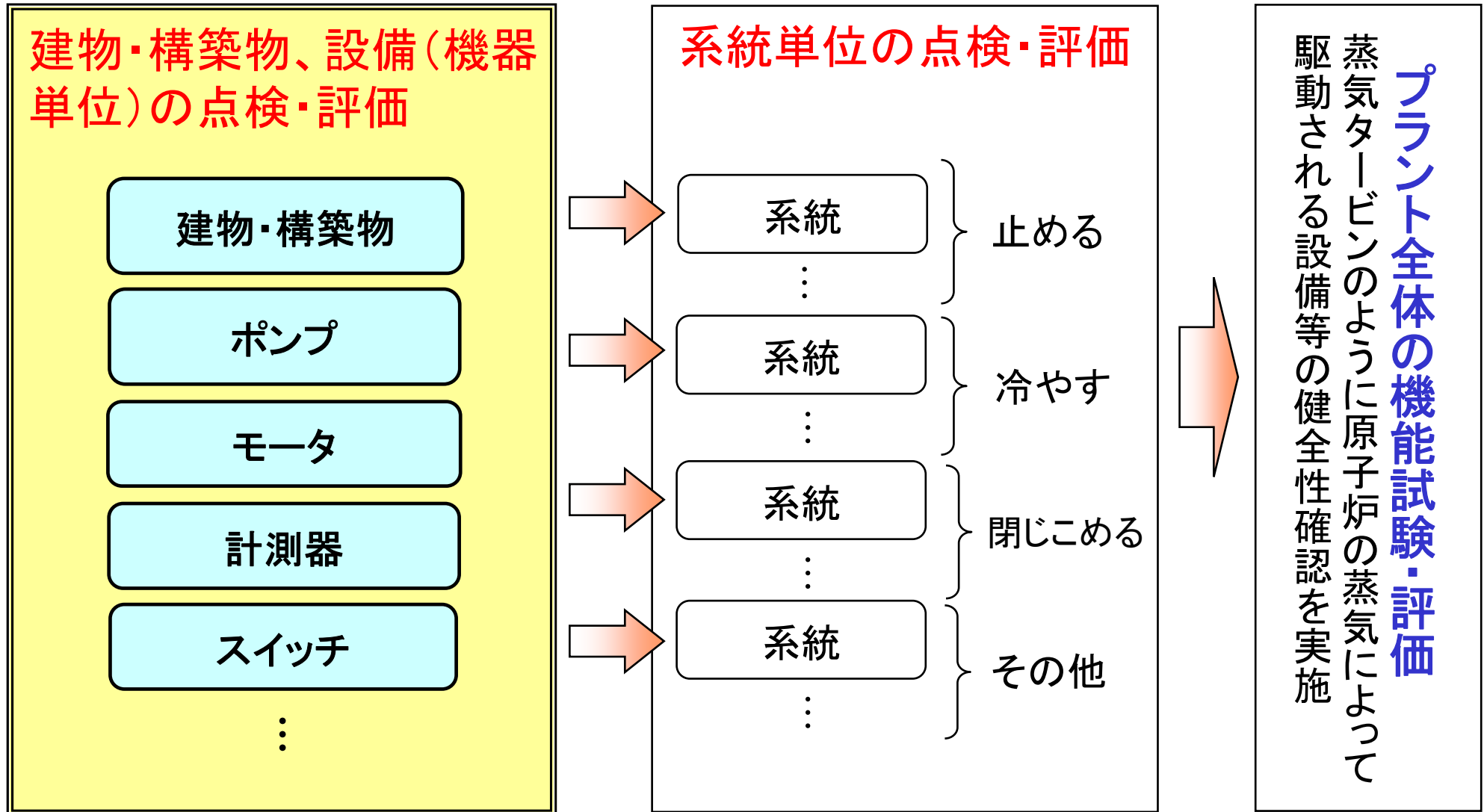


＜営業運転開始＞

今後の保全計画においても、地震の影響を注意する観点から、確認する項目を定め、これを確実に実施します。
中長期的な保全活動においても、地震の影響も踏まえて評価を実施します。

(3) 5号機 点検・復旧等の進捗状況

建物・構築物、機器単位の点検・評価について



5号機 建物・機器点検の様子

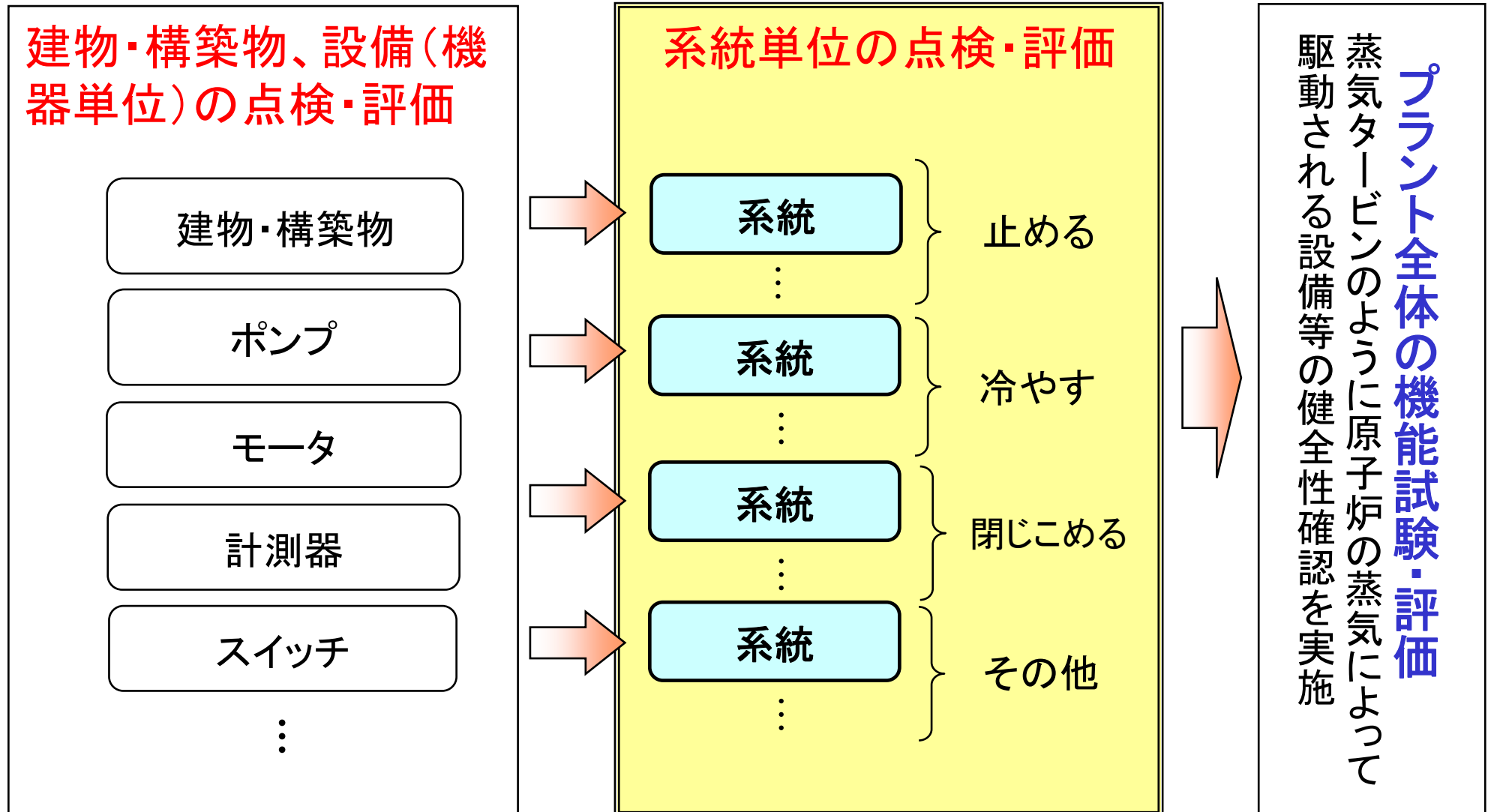


【 建物の点検 】

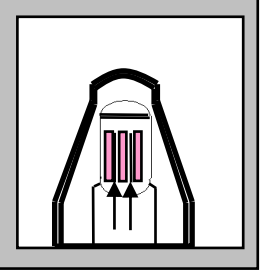
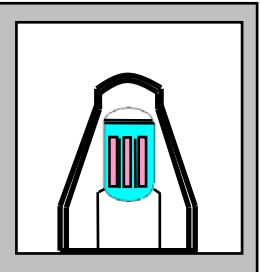


【 非常用ディーゼル発電機の点検 】

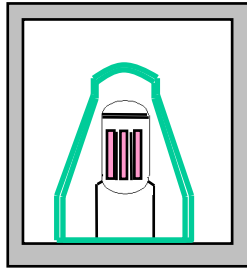
系統単位での点検・評価について



5号機 系統単位の試験項目

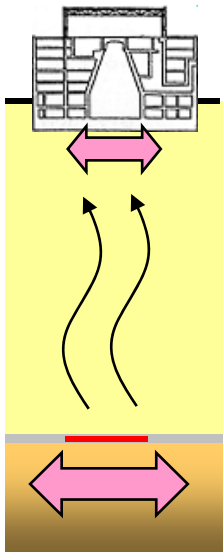
機能	系統機能試験
止める	原子炉停止余裕試験
	制御棒駆動系機能試験
	制御棒駆動機構機能試験
	ほう酸水注入系機能試験
	原子炉保護系インターロック機能試験
冷やす	タービンバイパス弁機能試験
	給水ポンプ機能試験
	非常用ディーゼル発電機定格容量確認試験
	自動減圧系機能試験
	非常用ディーゼル発電機、高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機、高圧炉心スプレイ系、低圧 炉心スプレイ系、低圧注水系、原子炉補機冷却 系機能試験

全29項目の試験を実施しました。

機能	系統機能試験
閉じこめる	主蒸気隔離弁機能試験
	原子炉格納容器隔離弁機能試験
	原子炉格納容器スプレイ系機能試験
	非常用ガス処理系機能試験
	原子炉建屋気密性能試験
	原子炉格納容器漏えい率試験
その他	可燃性ガス濃度制御系機能試験
	選択制御棒挿入機能試験
	原子炉建屋天井クレーン機能試験
	中央制御室非常用循環系機能試験
	液体廃棄物貯蔵設備・処理設備のインターロック機能試験(その1)(その2)
	固体廃棄物処理系焼却炉機能試験
	液体廃棄物処理系機能試験
	計装用圧縮空気系機能試験
	直流電源系機能試験
	補助ボイラー試運転試験(その1)
	補助ボイラー試運転試験(その2)
	蒸気タービン性能試験(その2)

基準地震動Ssの策定

活断層の調査結果から基準地震動を策定し、
これに基づき原子炉建屋の揺れを算出しました。



	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機
中越沖地震	680	606	384	492	442	322	356
基準地震動による 建屋の揺れ＊	873	809	761	704	601	728	740
耐震強化に向けた 建屋の揺れ	1,000						

＊：2～4号機は基準地震動報告書による試算値
1，5～7号機は耐震安全性評価結果報告書による確定値

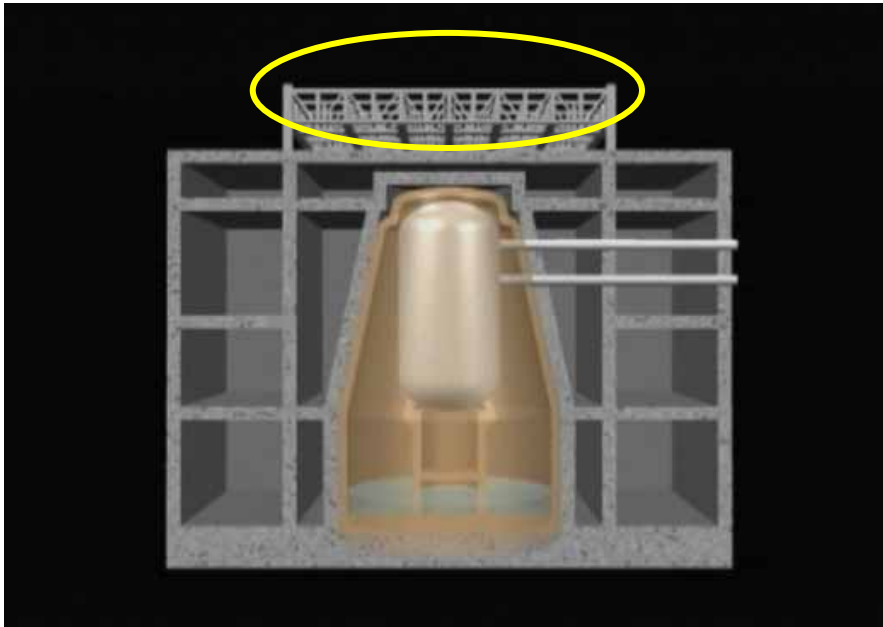
全号機で1,000ガル(原子炉建屋最地下部)の地震の揺れに対して、
必要な設備の耐震強化工事を行っております。

中越沖地震で 推定された地震動	1,699	1,011	1,113	1,478	766	539	613
基準地震動	2,300				1,209		

数値は東西方向の値 単位:ガル

5号機 耐震強化工事（原子炉建屋屋根トラス）

原子炉建屋屋根トラスでは、斜材、水平材の取り替え・追加などの耐震強化工事を実施しました。



【 原子炉建屋屋根トラス 】



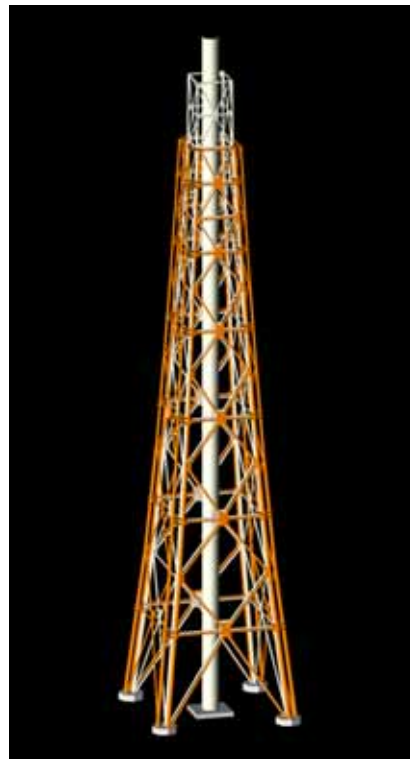
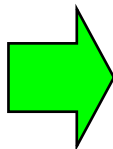
【 強化工事後の屋根トラス 】

5号機 耐震強化工事（排気筒）

排気筒では主柱材、斜材、水平材の増設などの耐震強化工事を実施しました。



強化工事前



強化工事後



【強化工事後の5号機排気筒】

5号機 耐震強化工事（配管サポート）

配管については、サポートの追加・補強などの耐震強化工事を実施しました。



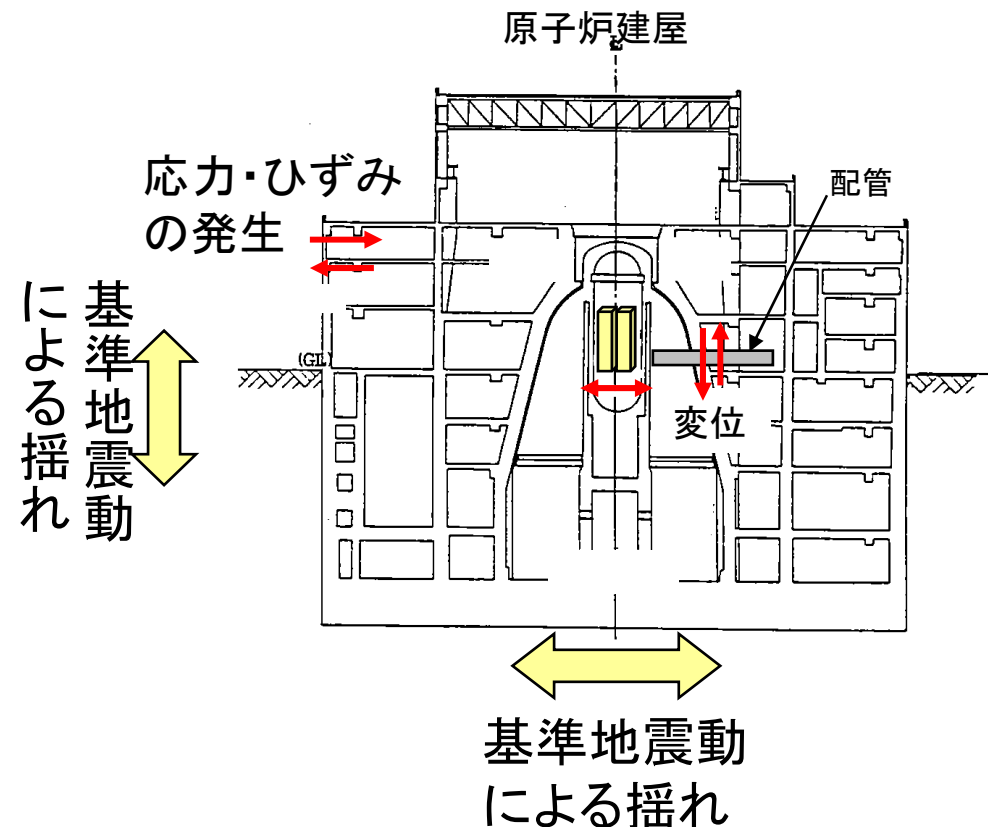
【 強化工事前 】



【 強化工事後 】

5号機 耐震安全性の評価

基準地震動Ssに対する耐震設計上重要な施設の安全機能を保持する観点から実施しました。



●建物・構築物の評価

基準地震動による揺れにより、建物・構築物に発生する応力またはひずみが基準値以下であるかどうかを確認しました。

●機器・配管系の評価

➤構造強度評価

基準地震動による揺れにより、機器・配管に発生する応力等が基準値以下であるかどうかを確認しました。

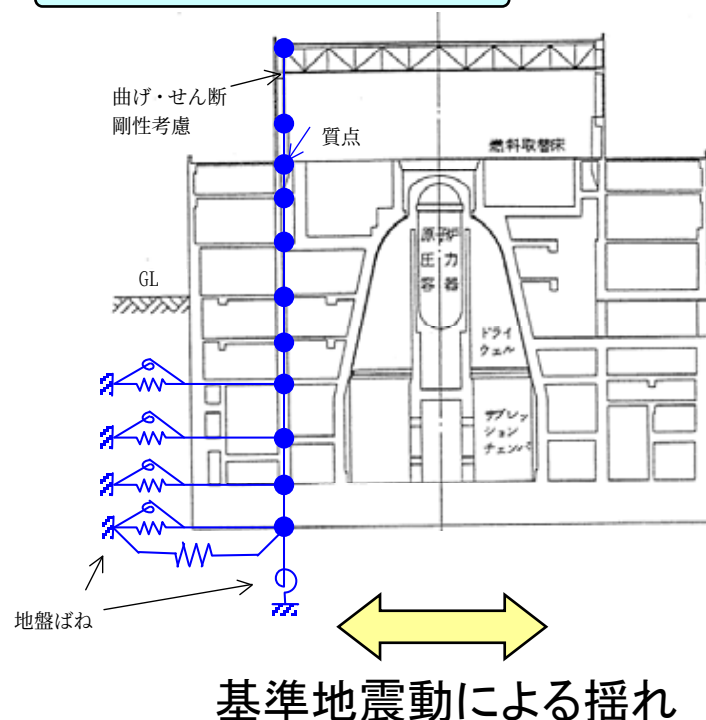
➤動的機能維持評価

基準地震動による揺れによる機器の変位量が試験や評価で正常に作動することが確認された値以下であるかどうかを確認しました。

5号機 建物・構築物の耐震安全性評価の一例

建物・構築物をモデル化し、解析により耐震安全性を評価しました。

原子炉建屋の評価



	基準地震動 S_s により発生するひずみ		評価基準値
	南北方向	東西方向	
耐震壁	0.23	0.29	2.0

数値はせん断ひずみの最大値 ($\times 10^{-3}$)

評価基準値

建屋・構築物、設備の機能を損なうひずみの大きさに対して、安全上の余裕をみて設定する基準値

原子炉建屋は基準地震動による揺れに対して、耐震安全性が確保されていると評価しました。

5号機 機器・配管系の耐震安全性評価

主要設備の評価例	評価部位	基準地震動S _s での発生応力(MPa)	評価基準値(MPa)
原子炉圧力容器	スタビライザブラケット	184	207
炉内構造物	シュラウドヘッド	187	222
原子炉格納容器※	ダイヤフラムフロア・シヤコネクタ	78 ^{*1}	114 ^{*1}
残留熱除去系熱交換器	胴板	108	380
主蒸気系配管※	配管本体	311	374

※: サポート耐震強化工事実施

*1: 単位は、kN/本

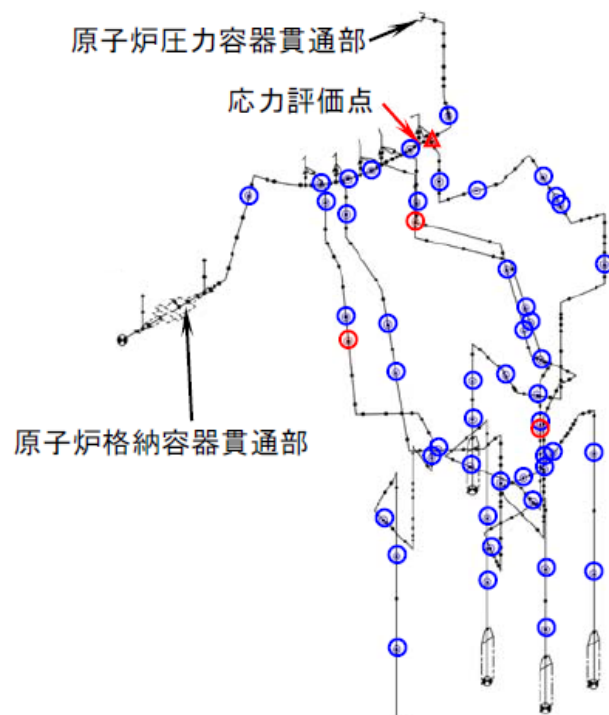
制 御 棒	地震時の相対変位(mm)	評価基準値(相対変位)(mm)
地震時の挿入性	20.9	40.0※1

※1: 常温における挿入試験により、規定時間内に制御棒が挿入されたことが確認された燃料変位

「止める」「冷やす」「閉じこめる」機能をはじめとする耐震Sクラスの主要設備に対し、基準地震動で揺れた場合の耐震安全性を評価し、耐震安全性が確保されていると評価しました。

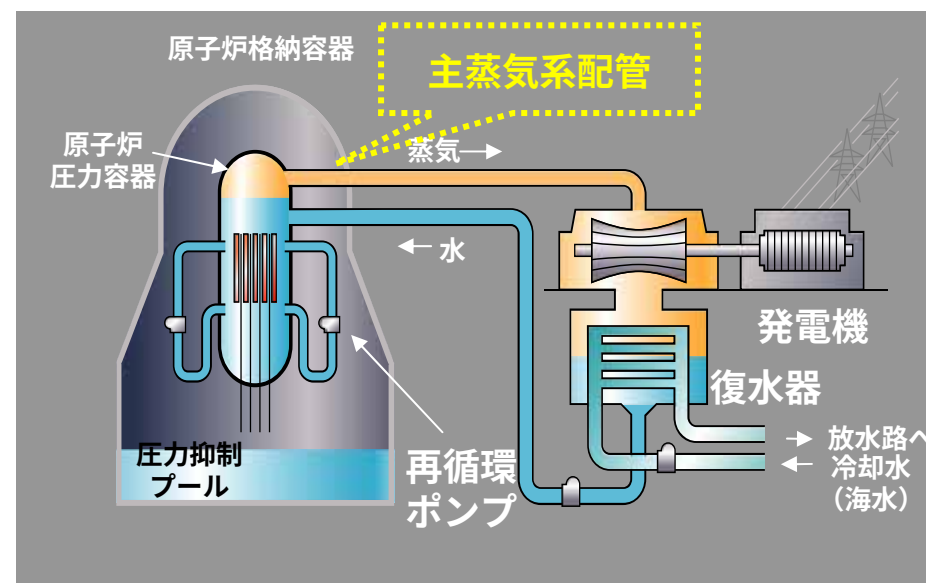
5号機 機器・配管系の耐震安全性評価の一例

主蒸気系配管の評価



解析モデル図のイメージ

- サポート(既設)
- サポート(強化)
- △ サポート(追設)



評価対象部位	基準地震動Ssでの発生応力(MPa) (最大値)	評価基準値 (MPa)
主蒸気系配管	311	374

主蒸気系配管は、基準地震動による揺れに対して耐震安全性が確保されていると評価しました。

1・6・7号機で確認された不適合事象への対応

「不適合事象の水平展開」

先行して実施した、1・6・7号機における「プラント全体の機能試験・評価」において確認された不適合事象のうち、水平展開が必要な不適合事象について、以下のように対応してまいります。

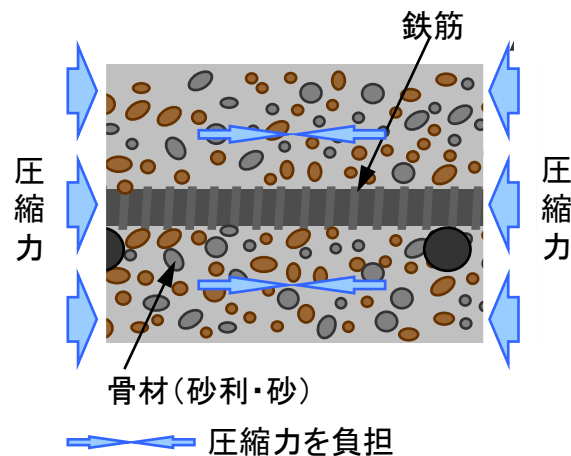
- ▶ プラント起動前に確認・対応が必要な事項については、確実に実施してまいります。
- ▶ プラント全体の機能試験・評価期間中に対応を実施するものについては、適切な時期に必要な対策を実施してまいります。

5号機 建屋の健全性確認（鉄筋コンクリート構造とは）

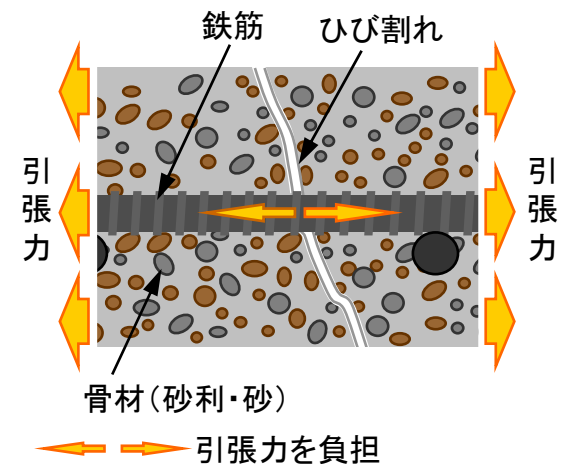
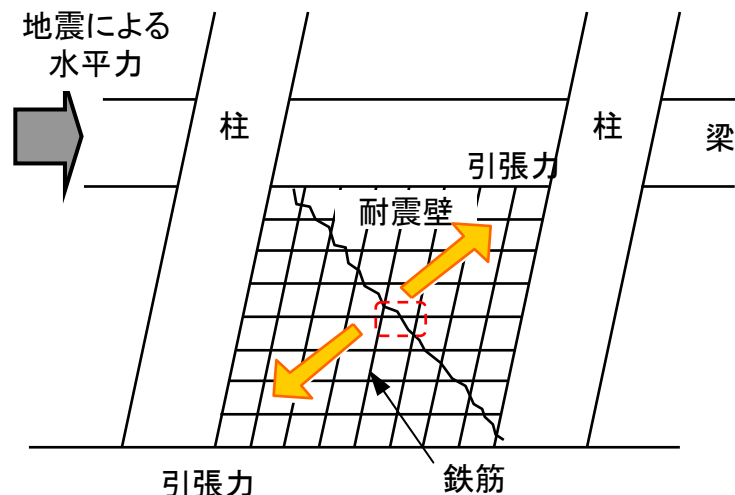
- 鉄筋コンクリート構造とは、圧縮力に強いコンクリートと、引張力に強い鉄筋の両者の長所が組合わされた構造です。
- コンクリートは引張力に弱いため、地震により水平力が作用すると引張力が生じコンクリートにひび割れが発生しやすくなります。
- 鉄筋コンクリート構造の耐震壁は、引張力を鉄筋で、圧縮力はコンクリートで負担するように設計しています。このため、耐震壁は引張力によってコンクリートにひび割れ（貫通を含む）が発生しても、鉄筋が健全であれば、十分な耐震性能を有すると評価できます。



7号機原子炉建屋の配筋例



圧縮力が発生した状態



引張力が発生した状態

5号機 建屋の健全性確認（ひび割れ目視点検について）

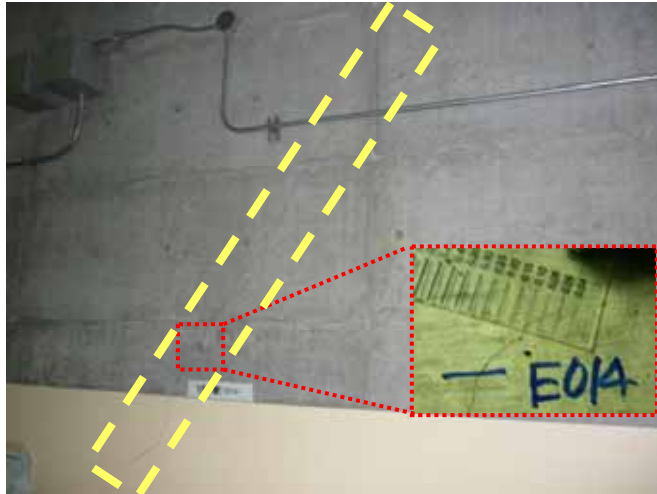
5号機原子炉建屋、タービン建屋及び海水熱交換器建屋の鉄筋コンクリート部について目視点検を行い、ひび割れ幅として評価基準値（1.0mm）を下回っており、構造上問題となるひび割れがないことを確認しました。

なお、点検の計画および点検結果の妥当性について、国や第三者機関の確認を受けました。

- ひび割れの発生は確認されたが、剥離・剥落は生じておらず、建屋の健全性に影響を与えるものではないことを確認しました。
- 一方、国・専門家による現地調査において、耐久性の観点より、ひび割れ貫通の有無についてのコメントがあったことから、タービン建屋のひび割れ深さ測定を実施しました。
- その結果、貫通の可能性があるひび割れ（4箇所）を確認しました。
これらを含め、地震で発生したものと評価したひび割れは、構造上問題となるものではありませんが、念のため耐久性の観点（鉄筋腐食防止等）から、適切に補修を実施しました。

5号機 建屋の健全性確認（貫通の可能性のあるひび割れ補修状況）

■ ひび割れ(E014) 幅0.1mm×長さ3.0m

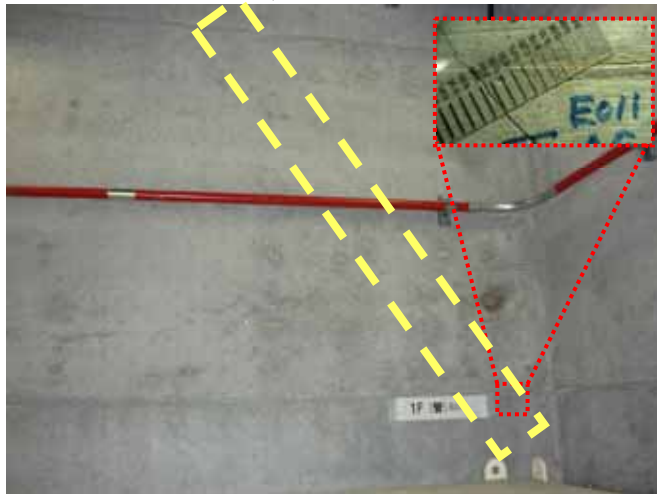


施工前



補修後

■ ひび割れ(E011) 幅0.4mm×長さ2.8m



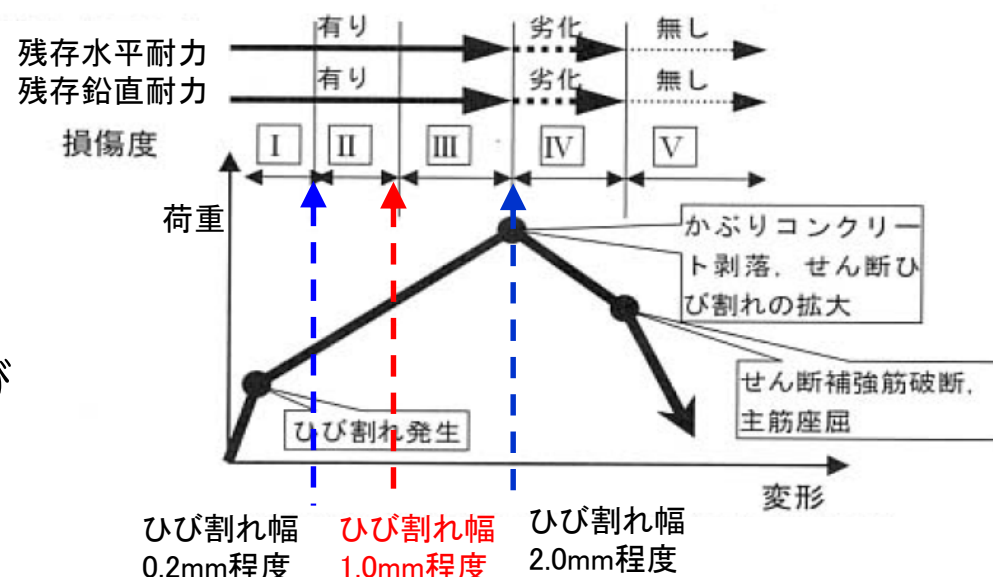
施工前



補修後

5号機 建屋の健全性確認（ひび割れ幅の評価基準値について）

- 地震による耐震壁の損傷度は、ひび割れ幅に基づき評価することができます。
- 右図に示すとおり、ひび割れ幅1.0～2.0mm程度（損傷度Ⅲ）までは、耐力を有しています。
- ひび割れ幅1.0～2.0mm程度（損傷度Ⅲ）と比較し、より耐力が確保されているひび割れ幅1.0mm程度（損傷度Ⅱ）を評価基準値に設定し、耐震壁の健全性の評価を行いました。
- なお、ひび割れ幅の評価基準値（1.0mm）については、国等で審議・了承されました。



荷重－変形と損傷度の概念図

出典：「震災建築物の被災度区分判定基準および
復旧技術指針」(財)日本建築防災協会（一部加筆）

柱、耐力壁 の損傷度	損傷内容	柱、耐力壁 の損傷度	損傷内容
I	近寄らないと見えにくい程度のひび割れ。 (ひび割れ幅0.2mm以下)	IV	大きなひび割れ(2mmを超える)が多数生じ、コンクリートの剥落も著しく鉄筋がかなり露出している。
II	肉眼ではっきり見える程度のひび割れ。 (ひび割れ幅0.2～1mm程度)	V	鉄筋が曲がり、内部のコンクリートも崩れ落ち、一見して柱(耐力壁)に高さ方向や水平方向に変形が生じていることがわかるもの。沈下や傾斜が見られるのが特徴。鉄筋の破断が生じている場合もある。
III	比較的大きなひび割れが生じているが、コンクリートの剥落はわずかである。 (ひび割れ幅1～2mm程度)		

5号機 建屋の健全性確認（まとめ）

- 地震による水平力（引張力）により耐震壁にひび割れが発生
 - 目視点検により、ひび割れ幅は1.0mmを下回っており、耐震壁として十分に耐力を有していることを確認しました。
- 中越沖地震による建屋健全性を確認
 - 地震応答解析の結果、耐震壁は概ね弾性範囲内であることを確認しました。

目視点検および地震応答解析の結果より、建屋の健全性は確保されていることを確認しました。



健全性評価結果およびエポキシ樹脂による補修の実施を踏まえ、基準地震動Ssによる耐震安全性評価を実施し、耐震安全性は確保されていることを確認しました。

- なお、地震で発生したものと評価したひび割れは、耐久性の観点（鉄筋腐食防止等）から、適切に補修を実施しました。
 - ひび割れをエポキシ樹脂により補修した耐震壁は、もとの耐力と同等程度の耐力を有しています。

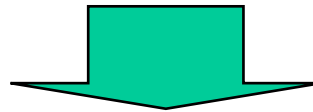
5号機 点検・復旧等の進捗状況（まとめ）

- 建物・構築物、機器の設備点検を完了しました。地震の影響によると考えられる不適合が確認された機器などがありましたが、それらは安全性に影響をおよぼさない軽微なものであり、補修などを行い設備の健全性を確認しました。
- 系統機能試験を完了し、系統機能が正常に発揮されることを確認しました。
- 安全上重要な設備の耐震強化工事を完了しました。
- 国へ「点検・評価報告書」および「プラント全体の機能試験・評価計画書」を提出しました。
引き続き、国の審議結果や地元自治体のご意向などを踏まえながら、提出した計画書にもとづき、点検、試験および評価を実施してまいります。

5号機の今後の予定

<プラント全体の機能試験による健全性確認>

原子炉を起動し、プラント運転データの採取や点検および試験等によりプラントの運転状態に問題がないことを確認する「プラント全体の機能試験」を実施します。



<総合負荷性能検査>

定期検査(法令)の最終確認検査を実施し、健全であることを評価します。

(4) 2～4号機の点検・復旧の進捗状況

2～4号機 点検・復旧の進捗状況

安全を最優先に点検および復旧を進めています。

平成22年7月7日現在

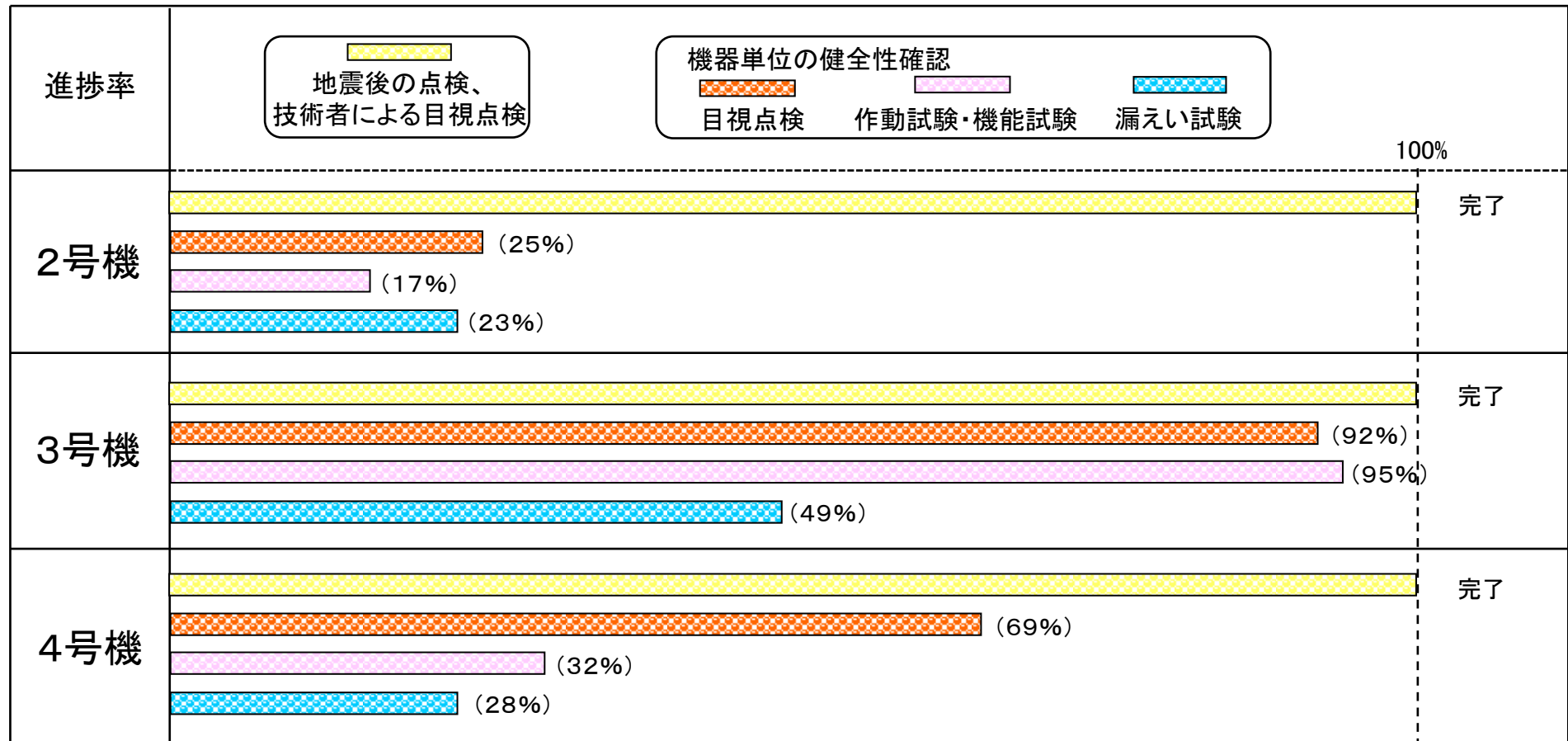
項目		2号機	3号機	4号機
点検評価 計画提出	建物・構築物	提出済み	提出済み	提出済み
	機器単位	提出済み	提出済み	提出済み
	機器単位 (共用設備)	所掌号機の提出に合わせて提出		
	系統単位	未	未	未
	プラント全体の 機能試験	未	未	未
点検評価 進捗状況	建物・構築物	実施中	実施中	実施中
	機器単位	実施中	実施中	実施中
	系統単位	未	未	未

※ 以下の項目を除く

- ・燃料が炉内に装荷された状態で実施する作動・漏えい試験等
- ・主タービン復旧後でなければ実施できない作動・漏えい試験等

2～4号機の機器単位の健全性確認状況

平成22年7月7日現在



2～4号機 耐震強化工事の進捗状況

原子炉建屋屋根トラスおよび排気筒の耐震強化工事を完了しました。
引き続き、安全を最優先に耐震強化工事を進めています。

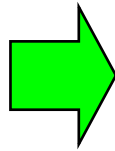
項 目	2号機	3号機	4号機
配管等サポート	工事準備中	実施中	工事準備中
原子炉建屋 屋根トラス	完了	完了	完了
排気筒	完了	完了	完了
原子炉建屋 天井クレーン	工事準備中	実施中	実施中
燃料取替機	工事準備中	実施中	工事準備中
非常用取水路	工事要否の評価中	工事要否の評価中	工事要否の評価中

耐震強化工事の例（排気筒）

排気筒では主柱材、斜材、水平材の増設などの耐震強化工事を行いました。



強化工事前



強化工事後



【4号機排気筒】

（５）発電所の安全・品質の向上および透明性の確保に向けた取り組みの状況

発電所全体の取り組み状況

作業安全の向上

社外専門家による指導を継続して実施するなど、協力企業を含む発電所全体で更なる作業安全の向上に取り組んでいます。

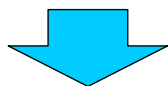
発電所の透明性の確保

平成14年の不祥事以降の原子力再生活動や品質マネジメントへの取り組みを継続して進めることで、協力企業と一体となって安全と品質の向上に取り組んでいます。

作業安全の向上（1／3）

- ◆ 社外専門家と協力企業による意見交換会を実施しました。
実施日：4／20，5／21，6／22

- ◆ 安全意識の高揚を目的に社外専門家による安全講話を開催しました。
実施日：6／8



- ◆ 引き続き協力企業と一体となった「現場の危険発見活動」を継続しています。
- ◆ あわせて各社の活動の見える化を推進しています。



【社外専門家による安全講話】

作業安全の向上（2／3）

デジタルカメラを利用した 危険発見活動

現場の状況を撮影し、現場
管理の問題やリスクおよび
良好事例を並記



- ・ 不安全箇所・行為の発見力向上
- ・ 水平展開して現場改善を図る



改善事例をワンシート化

朝礼会場等への掲示：作業員への注意喚起

安全活動掲示板

安全確保に向けた当社・協力企業の
継続的な取り組み状況を掲示



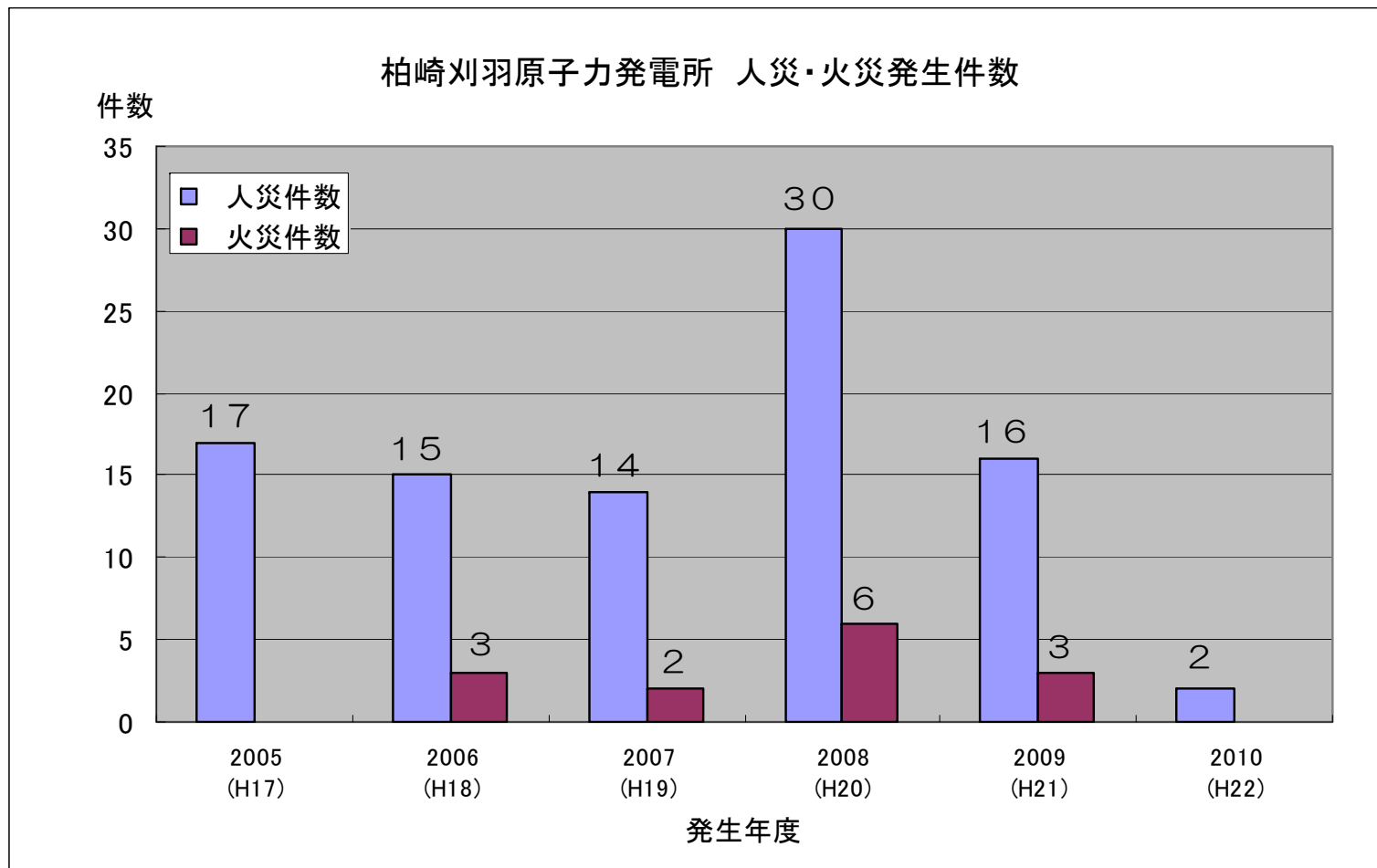
安全活動の共有化



安全活動の見える化

作業安全の向上（3／3）

さまざまな取り組みにより、平成20年度以降は、火災・人災とも減少傾向にあります。



（平成22年7月2日現在）

発電所の透明性確保（1／3）

◆平成14年以降、組織全体の徹底的な体質改善を目指して取り組んできている原子力再生活動があり、「**しない風土**」「**させない仕組み**」のもとで、以下の取り組みを行ってきました。

- 企業倫理活動やコミュニケーションの活性化
- 規程・マニュアルの整備
- 不適合を管理する仕組み



【不適合管理委員会】

◆平成19年からは、新たに、自発的に言い出しそれを積極的に受け止める「**言い出す仕組み**」として、グループ討議の活用等による業務の集中的な見直しなどに取り組んでまいりました。

- 不適合については、**安全向上への教訓**とするため、どんな小さなものでも報告と情報共有を徹底し、全件公表するとともに、毎日の会議でその対処方策を審議、決定しています。

発電所の透明性確保（2／3）

発電所の情報を迅速に、わかりやすくお伝えできるよう、様々な媒体を用いて公開するとともに、多くの皆さまから発電所をご視察いただいています。

ニュースアトム（定例号）



ニュースアトム（臨時号）



情報公開コーナー



ビデオレター



発電所視察会



テレビCM



発電所の透明性確保（3／3）

- ふれあい訪問やアンケートなど、地域の皆さまからいただいたご意見、ご要望などを発電所内で共有し、発電所の業務運営に反映しています。
- 反映した主な声
 - ・ 怪我や火災等を絶対起こさないでください。
→ TBM-KYや危険発見活動等、作業安全の向上に努めています。
 - ・ 運転マナーを徹底してほしい。
→ 構内掲示板や呼びかけ、構内チラシ等で注意喚起をしています。
 - ・ 発電所の復旧状況を知りたい。
→ ニュースアトムやホームページ等でタイムリーにお知らせしています。



地域の声委員会



← いただいた声を
構内配布チラシ
に掲載

本日のご説明内容のまとめ

- 6・7号機は、引き続き安全を第一に慎重に運転を行ってまいります。
- 1・5号機については国、新潟県の委員会にて安全性について確認頂けますよう、丁寧に説明してまいります。
- 2～4号機の点検・試験・評価、耐震強化工事につきましては、作業安全・火災防止を徹底し、慎重に実施してまいります。
- 引き続き、発電所の状況につきましては、広報誌、ホームページなどを通じて、わかりやすく地域の皆さまにお知らせしてまいります。
- 今後も、今回の被災により得られた知見を活かして、「安全で、災害に強く、世界に誇れる原子力発電所」を目指し、協力企業と一体となって安全と品質向上を進めてまいります。